

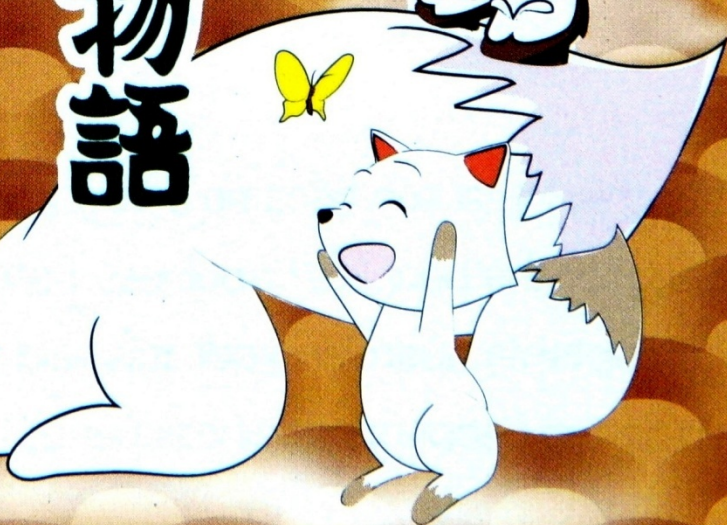
恩田稲荷尊天

# はつねん物語

恩田の昔話より



こころからひらいて  
おはなしをよもう



物語 作画

おだはらまさゆき





昔々のお話です。

愛知県刈谷市の恩田というところに  
松雲院というお寺があります。

そのお寺に伝わる不思議な力を持った  
白狐の親子のお話です。



## 松雲院

正平20年（1365）頃、恩田弥平治郎清信が足利義詮の攻撃によって戦死し、家臣高木玄信が私邸に薬師如来を安置したのに始まるとされる。恩田の地名もこれに由来する。その後、貞享4年（1687）幡豆郡貝吹村長円寺の月舟は板倉重宗の法名「松雲院殿秀峰源俊大居士」により寺号を松雲院と改め、長円寺の末寺とした。

月舟書群、天明釜は刈谷市指定文化財である。

また当寺ゆかりの伝説「恩田の初連」もよく知られている。

平成13年3月

刈谷市教育委員会



松雲院の中にある竹やぶの中に「初連」  
(はつれん)という不思議な力を持った  
白ぎつねが子ぎつねといっしょに住んで  
いました。



養天吉

曹洞宗  
松雲院



松雲院の和尚さまは、  
とても心のやさしい  
和尚さまで、はつれん  
親子をととても  
かわいがって  
いたそうです。



ある日のことでした。和尚さまは  
目の病気になってしまいました。  
和尚さまは、小僧さんに  
「お医者さまのところへ行って  
目薬をもらってきておくれ」と  
たのみました。





?

小僧さんは、急いでお医者さまの  
ところに行きました。

和尚さまの目を治す目薬をください  
と小僧さんがいうと、お医者さまは  
不思議そうな顔をして言いました。





おや、おかしいですね、  
ついさつき小僧さんは  
目薬をもらいに  
来たじゃない  
ですか、  
まるで  
きつねに  
つままれた  
ような話です  
ねえー。





小僧さんは、あわててお寺に帰って、和尚さんに  
わけを話しました。すると和尚さんは言いました。



それは、はつれんのしわざでしょう。  
いっしょにはつれんが住む穴に行ってみましょう。

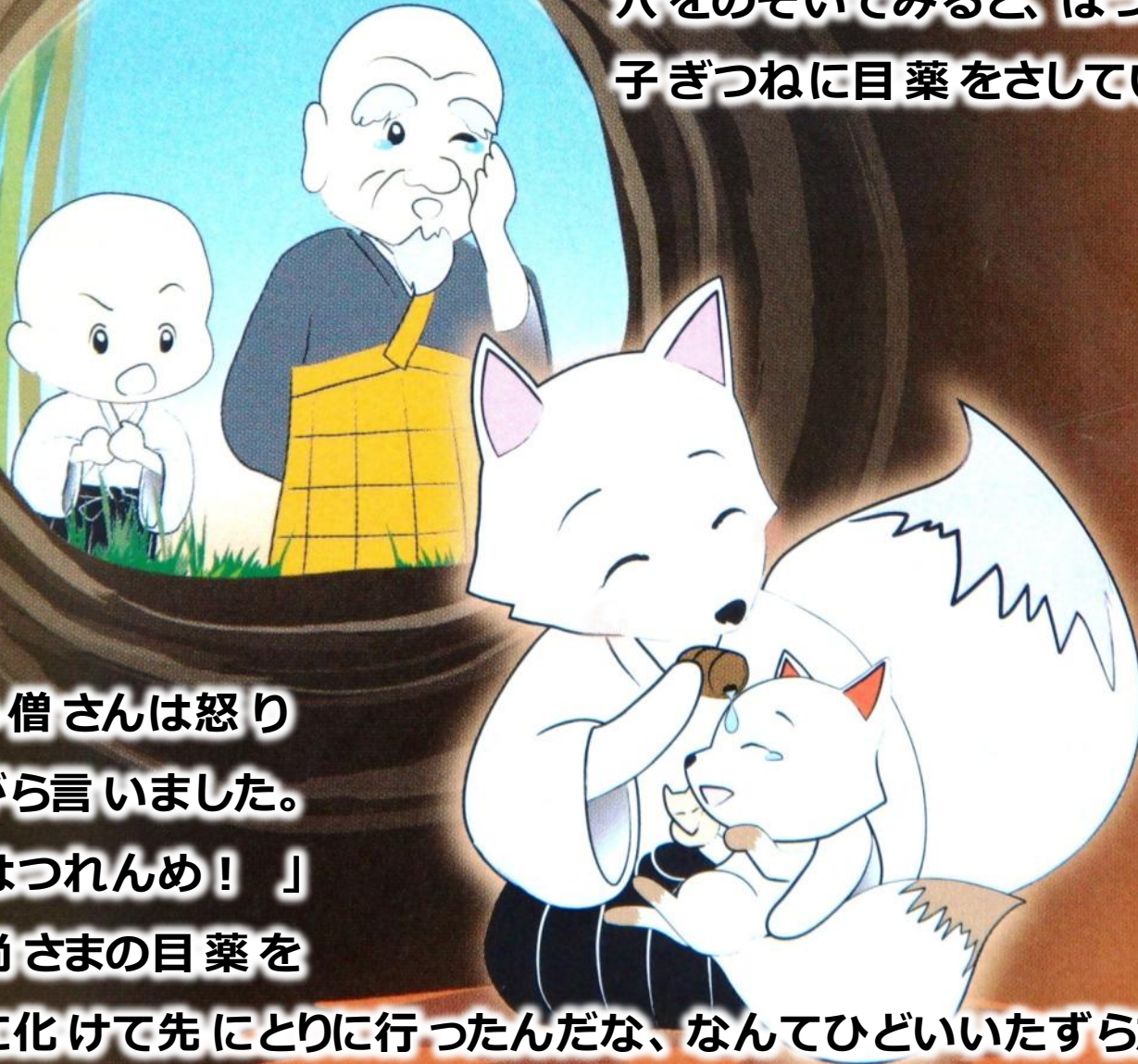


和尚さまと小僧さんがはつれんの  
穴をのぞいてみると、はつれんが  
子ぎつねに目薬をさしていました。

小僧さんは怒り  
ながら言いました。

「はつれんめ！」  
和尚さまの目薬を

私に化けて先にとりに行ったんだな、なんてひどいはずらだ！





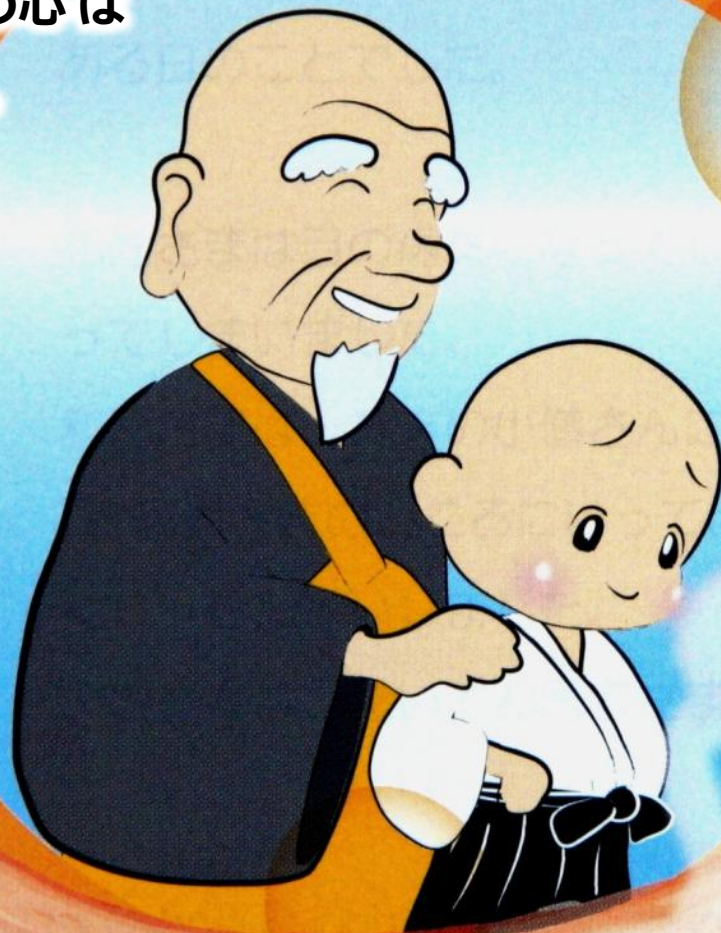


和尚さまは、怒る小僧さんの肩に手を置いて言いました。見てごらんはつれんの目を…。

あんなに優しいはつれんの目を初めて見ました。きっと子ぎつねのためにどうしても目薬が欲しかったんだろう。



子どもを想う親の心は  
人もきつねも同じ。  
今度ばかりは、  
はつれんを叱る  
のはやめておこう。



そう言って二人は、はつれん親子の  
様子をしばらく眺めていました。  
すると不思議なことに和尚さまの目は  
すっかり治っていました。








はつれんは、それからもいたずらしては和尚さまを  
こまらせていましたが、やがて正しい心に導かれ刈谷の  
人々を守る立派なきつねになっていきました。





はつれんは恩田稲荷尊天と呼ばれ、  
今も、恩田初連（はつれん）の里、  
松雲院からみなさんの幸せを守り  
続けています。





大きな木々に囲まれた  
西三河一のパワースポット  
恩田の初連の里  
曹洞宗 松雲院





曹洞宗 松雲院





恩田稻荷尊天 恩田の初連の里 曹洞宗 松雲院

所在地 愛知県刈谷市恩田町3丁目151-8番地



